

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 金山 郷子

〔題名〕

肥満およびメタボリックシンドローム関連因子と大腸腫瘍罹患リスクとの関連性について

(CORRELATIONS BETWEEN OBESITY/METABOLIC SYNDROME-RELATED FACTORS AND RISK OF DEVELOPING COLORECTAL TUMORS)

〔要旨〕

【目的】近年の日本において増加している大腸癌による癌死を予防するため、腺腫の段階で確実に診断および治療が行われることが望ましいが、大腸腫瘍に対する効率的なスクリーニング方法は確立されていない。本検討の目的は、大腸内視鏡検査症例を後ろ向きに検討し、大腸腺腫の罹患率とBMI、腹囲、体脂肪率の関連性及び高血圧、糖尿病、脂質異常症に代表される肥満およびMetabolic syndrome関連因子との関連性を明らかにし、大腸腫瘍スクリーニングに対する有用性について検討した。【方法】2009年4月から2012年3月までに当院において大腸内視鏡検査を施行した2668例のうち40歳から80歳の症例において、BMI、腹囲、体脂肪率の測定及び高血圧、糖尿病、高脂血症の既往歴の有無について確認が可能であった837例（男性467例、女性370例）について解析を行った。大腸腫瘍群は1mm以上の腫瘍性病変およびその既往を有する者と定義し、それ以外を非腫瘍群と定義した。【結果】大腸腫瘍群は837例中460例（55.0%）であった。多変量解析では性別、年齢、腹囲に有意差を認め、男性は女性と比較してOR=2.57と大腸腫瘍罹患リスクが高かった。男女別に検討を行ったところ、男性では大腸腫瘍群と非腫瘍群では年齢、腹囲、体脂肪率で両者に有意差を認め、女性では年齢でのみ両者に有意差を認めた。男性では腹囲を75cm、85cm、95cmで分類して多変量解析を行ったところ、腹囲85cm以上95cm未満では腹囲75cm未満のORを1としてORは1.94倍、腹囲95cm以上ではORが2.57倍と大腸腫瘍罹患のリスクの増加を認めた。【結論】男性における腹囲、体脂肪率と大腸腫瘍罹患との関連性が示された。この知見を基に、よりの確な大腸腫瘍罹患高リスク患者の抽出と効率的な大腸癌検診システムが構築できると考えられた。

学位論文審査の結果の要旨

医学系研究科応用分子生命科学系 (医学系)

報告番号	甲 第 1354 号	氏 名	金山 郷子
論文審査担当者	主査教授	周 玉翔	
	副査教授	伊藤 浩史	
	副査教授	佐野 功	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は, 行を変えて和訳を括弧書きで記載する.)			
肥満およびメタボリックシンドローム関連因子と大腸腫瘍罹患リスクとの関連性について (CORRELATIONS BETWEEN OBESITY/METABOLIC SYNDROME-RELATED FACTORS AND RISK OF DEVELOPING COLORECTAL TUMORS)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は, 行を変えて和訳を括弧書きで記載する.)			
CORRELATIONS BETWEEN OBESITY/METABOLIC SYNDROME-RELATED FACTORS AND RISK OF DEVELOPING COLORECTAL TUMORS (肥満およびメタボリックシンドローム関連因子と大腸腫瘍罹患リスクとの関連性について)			
掲載雑誌名 Hepato-Gastroenterology Vol. 60 No. 124 P. 733-737 (2012年12月掲載)			
(論文審査の要旨)			
<p>【目的】近年の日本において増加している大腸癌による癌死を予防するため, 腺腫の段階で確実に診断および治療が行われることが望ましいが, 大腸腫瘍に対する効率的なスクリーニング方法は確立されていない. 本検討の目的は, 大腸内視鏡検査症例を後ろ向きに検討し, 大腸腺腫の罹患率と BMI, 腹囲, 体脂肪率の関連性及び高血圧, 糖尿病, 脂質異常症に代表される肥満および Metabolic syndrome 関連因子との関連性を明らかにし, 大腸腫瘍スクリーニングに対する有用性について検討した. 【方法】2009年4月から2012年3月までに当院において大腸内視鏡検査を施行した2668例のうち40歳から80歳の症例において, BMI, 腹囲, 体脂肪率の測定及び高血圧, 糖尿病, 高脂血症の既往歴の有無について確認が可能であった837例(男性467例, 女性370例)について解析を行った. 大腸腫瘍群は1mm以上の腫瘍性病変およびその既往を有する者と定義し, それ以外を非腫瘍群と定義した. 【結果】大腸腫瘍群は837例中460例(55.0%)であった. 多変量解析では性別, 年齢, 腹囲に有意差を認め, 男性は女性に比較してOR=2.57と大腸腫瘍罹患リスクが高かった. 男女別に検討を行ったところ, 男性では大腸腫瘍群と非腫瘍群では年齢, 腹囲, 体脂肪率で両者に有意差を認め, 女性では年齢でのみ両者に有意差を認めた. 男性では腹囲を75cm, 85cm, 95cmで分類して多変量解析を行ったところ, 腹囲85cm以上95cm未満では腹囲75cm未満のORを1としてORは1.94倍, 腹囲95cm以上ではORが2.57倍と大腸腫瘍罹患のリスクの増加を認めた. 【結論】男性における腹囲, 体脂肪率と大腸腫瘍罹患との関連性が示された. この知見を基に, より的確な大腸腫瘍罹患高リスク患者の抽出と効率的な大腸癌検診システムが構築できると考えられた.</p>			
<p>本研究は, 肥満およびメタボリックシンドローム関連因子と大腸腫瘍罹患リスクとの関連性について明らかにした論文である. よって, 学位論文として価値あるものであると認められた.</p>			

備考 審査の要旨は800字以内とすること.